

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300339		
法人名	株式会社 あいの里		
事業所名	逢瀬町 絆		
所在地	福島県郡山市逢瀬町多田野字浄土松道10-6		
自己評価作成日	令和5年2月5日	評価結果市町村受理日	令和5年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和5年3月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の風景が楽しめて、窓からの景色が開放的な事業所です。入居の理由に「生まれ育った景色に近い。」とおっしゃる方もおります。近くの田んぼには毎年白鳥が飛来し、事業所の真上を飛ぶ姿は圧巻です。コロナ禍の影響で、地域の方々との関りは以前よりは減りましたが、採れたての野菜や季節ごとの花の植え付けなど、変わらぬご支援を頂いています。一年の歳時記を大切にしながら、誕生会では、その方に寄せた職員の想いを込めて、企画・準備を進め行っています。感染状況を考慮し、感染対策をしながらご家族様のご参加も出来る様になりました。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. グループホームに求められる馴染みの暮らしとその人らしい生き方を基本に、家庭的な雰囲気の中でゆったり穏やかに過ごして頂き、利用者一人一人が能力に応じた役割(料理・掃除・畑仕事等)を持って生活できるよう支援している。
2. 利用者一人一人がその人らしく生活できるよう馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援しており、昨年より条件を付けて家族との面会を再開している。利用者の誕生会には、家族にも参加して頂き利用者にとって楽しい一日となるよう支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示し、会議の際には必ず全員で唱和し共有と実践につなげています。事業所としても年度毎に目標として作り意識を高めており、共有と実践を心掛けています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人理念を事業所理念とし、実践に繋がれるように毎年、ユニット目標を策定している。毎月、全体会議の冒頭に全職員で理念等を唱和し、ホールに掲示しながら職員間で共有し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として集まりには参加するように心がけています。野菜の収穫や、花いっぱい運動では、お茶の提供、休憩場所の提供をしています。回覧板の当番などで、交流を保てるようにしています。	町内会に加入し、回覧板を回す際に近隣の人と挨拶を交わしたり、「花いっぱい運動」で、地域の人へお茶を提供し、事業所の駐車場で休憩してもらい、交流を図っている。残ったお花の苗を頂いた時は、事業所の入り口に植えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の集まりなどで、事業所の存在の認知され、認知症に対しての相談や、利用についての相談を頂く機会が増えました。地域ケア会議等にも参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	今年度は、コロナウィルス感染予防対策で開催は中止しています。	2か月毎にサービス提供状況やヒヤリハット・事故等の原因や対応策をまとめ、運営推進会議委員に書類を送付し書面開催しているが、家族代表等への送付は行われていない。また、今年の1月は管理者が変更になり、対応できていない。	コロナ禍にあっても定期的に運営状況や意見提出様式などを加えた書面を送付する等、書面による運営推進会議の開催が望まれる。また、委員には利用者代表や家族代表も入れ4者構成とすることが必要である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの様々な情報はメールで届くのでその都度対応している。コロナ感染の際には、防護服の着脱の仕方等や注意すべきところを教えていただいた。	市の担当者へは利用者の介護保険の更新手続きや運営状況の報告で連絡を密にとり、不明点・疑問点があれば、いつでも気軽に相談できる関係が構築されている。コロナ感染が出た時には、防護服の着脱方法を指導してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月毎のユニット会議において、チェック表を使い身体拘束について確認し合っている。なぜダメなのかについても、分かりやすく説明を行っている。気になるところは声をかけて注意をするようにしています。	身体拘束適正化委員会では、「不適切ケアチェックリスト」で振り返り、身体拘束をしないケアに努めている。研修会等により、身体拘束による弊害の理解を深めており、家に帰りたい利用者とは一緒に散歩する等、日中、玄関の鍵はかけていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、虐待防止に努めている。職員の態度、言葉のかけ方、言葉遣いには気を付けて注意しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、現在利用されている方がおらず、ユニット会議を利用しながら学ぶ機会を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な時間を頂き、契約内容・重要事項説明書の説明を行い、必ず内容について疑問・質問が無いか伺っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社主体で全利用者様、家族の方にアンケートを取り、意見や要望を伺っていました。今年度は、直接電話等で伺うことが多く近況などの説明をする時間が多くなりました。	家族の来訪時・電話連絡時は、利用者の様子を詳しく報告し、家族の意見や要望を聞き取るよう心がけている。また、利用者の誕生日会には家族にも参加して頂き、意見等を聞いている。聞き取った意見等は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は全体会議には必ず出席され、職員からの意見を聞いている。会議が終わった後も聞きやすい状況のなかで関わっている。管理者はその他ユニット会議や面談を行い職員の意見を聞く機会を設けている。	年に数回職員面談を行い、悩みや意見等を聞いている。ユニット会議の意見は法人に報告し、情報共有している。全体会議には法人代表・介護部長が出席し、職員の意見を把握しており運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は全職員の勤務表の最終確認をしておき、更に細かくアドバイスを頂く事もあります。全体会議終了後には、職員一人ひとりに声を掛け、話をする時間を取って下さいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や介護技術に関しての研修は、職員の要望があれば速やかに社内研修として開催して下さいます。資格取得等に関しては「資格取得支援制度」があり、職員が取りやすい環境作りにつとめています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年数に応じ、認知症基礎研修や認知症実践者研修に参加している。現在はリモートでの研修が多く、交流の場は減っています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様とは、ご自宅にて実態調査を行い、リラックスした状況でお話を伺います。入居後は、他の職員も話を聞く事で、新たな情報を得、共有するようつとめています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の希望と伺い、本人様の状態が継続・向上できる提案をさせて頂きながら、まずは新しい環境に慣れて頂くようつとめます。その状況は電話やお手紙でお知らせしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の現状を把握し、どのような支援・関わり方が必要なのか話し合い、ケアの統一が図れるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の居場所として安心して過ごして頂ける様、役割を持ちメリハリのある生活を送れる様心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の要望等を家族様にお伝えし、家族様と関わる時間を作る様にしていますが、今年度はコロナ禍の影響で、電話や窓越し面会、オンライン面会での関わりで、例年より少なくなっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナ禍も影響で面会制限、外出・買い物等の制限もあり、積極的な関係の継続が難しい一年でした。	毎年、誕生会には家族を招待し参加して頂き、楽しい時間を過ごして頂いている。遠方の家族で参加が難しい場合は、オンラインで参加して頂いている。面会も人数制限をして訪問者の体調管理と体温測定のもと再開している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席の配慮や、職員が間に入り話の橋渡しをしたり、良好な関係作りの支援につとめています。各々の性格の把握につとめ、トラブルを未然に防ぐよう心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙や行事のお誘いのお知らせを送らせて頂いていましたが、今年度は季節のハガキのみ送らせて頂きました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の言葉には常に傾聴し、その思いを共有する様につとめています。本人様に代わり、家族様にお伝えする事もあり、叶えることができるよう取り組んでいます。	日常生活支援の中から利用者の思いや希望を把握している。また、意思表示の困難な場合、家族からの情報をもとに利用者の表情や仕草から思いや意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様より話を伺い、また、本人様とも話をしながら過去の暮らしぶりを知るよう心掛けています。趣味や仕事・家事等の把握につとめています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中帯・夜間帯の行動等の状況の把握につとめ、本人様が安全に過ごせるよう心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて話し合い、ケアの見直し・ケアの統一を図っています。	利用者・家族の思いや利用者の身体状況の変化をもとに、実施状況のモニタリングを行い、ユニット会議での職員の意見を取入れ、計画作成担当者が介護計画を作成している。定期的に計画の見直しを行い、状況変化時は随時見直しを行い現状に合った計画作成に取り組んでいるが、支援したものが記録に見られない場合がある。	「24時間サービス一覧」には、ケアプランの具体的な支援内容を記入し、職員が支援した場合は、記録に残して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活記録シートには、その日の行動や言動などを記録し、いつもと違うような行動がみられる時には、ケアの再確認や見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に数回、併設の小規模多機能型事業所へ行き、利用者様・職員と交流する時間を設けている。その他にも自由に行き来している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の周りを散歩したり、交流の機会を持つことで、地域の方と顔なじみになり、気にかけて頂き安心して過ごせるようつとめています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に受診については説明を行い、かかりつけ医の選択は家族様・本人様に委ねています。往診が中心ですが、家族の不安や希望等も医師に伝え、良好な関係を築けるように支援しています。	入居時に受診についての説明を行い、かかりつけ医は利用者と家族の意向で決めている。通院は家族対応とし戻った時に受診結果を家族から報告を受けている。協力医の受診は月2回の往診がある。受診結果は電話や報告書により家族と情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週一回来所し健康チェックを行っています。状態の変化等は速やかに連絡を取り指示を頂いており、主治医との連携も図れています。併設する小規模の看護師にも協力をして頂く事もあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員や家族様とも連絡を密にし、退院後の不安が軽減できるようつとめています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」について説明を行い、「看取りについての同意」についても説明と意向を伺っています。体調の変化等見られた場合には、再度、意向の確認を行っています。	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し、利用者・家族の同意を得ている。利用者が重度化し、家族の希望で看取り支援となる場合は、医師の診断を基にユニット会議で連携の方法を確認している。ケアの変更が必要な場合は緊急ユニット会議を開催し職員間で情報を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、自己判断に頼らず、訪問看護師・主治医に連絡をし指示を仰ぎ対応しています。併設の小規模の看護師に来て頂く事もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間4回、内消防署立会での訓練を2回実施していましたが、コロナ禍により立会いは1回となりました。夜間帯・水害時等毎回テーマを決めている。実施の際には近隣の方にも声を掛けています。災害に備え備蓄品も整備し、ストーブ・カセットコンロ等も準備しました。	消防署立ち会いの訓練は年1回実施している。他に夜間想定、AEDを使用した利用者急変時想定を実施し、震災想定「地震や水害」訓練では石油ストーブを使い備蓄品を調理した食事体験もしている。備蓄はボトル飲料水他11品、ガスボンベ等を準備している。しかし、地域の協力体制は構築されていない。	職員が夜間帯でも利用者を的確に避難誘導できるよう、夜間想定訓練を数多く実施してほしい。また、地域の消防団や住民との協力体制づくりも望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声掛けに対し充分注意する様指導しています。異性の職員に対し遠慮される方には無理に対応せず、職員が代わり、信頼関係を築く様つとめています。	利用者一人一人の人格を尊重した言葉使いを心掛けており、接遇の研修も行っている。気になる対応があったときはユニット会議等で話し合いを行い、利用者との信頼関係の構築に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を伺いながら、出来る限り本人のペースを見守ります。自己決定が出来ない場面では、職員から助言をする事もあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれ、ご自分のペースで自由に過ごされています。居室・リビングを自由に行き来され、時には居室で食事をとりたい方には、そのように対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段からお化粧をされる方には、毎朝お声がけをしています。季節の行事やお誕生会等には、着物やジャケットを着て頂き、いつもと違う楽しさを感じて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	畑の野菜を一緒に収穫し、調理・盛り付けを行いながら、食事が楽しくなるようつとめています。季節を感じる食材やお料理を通じ、一緒に食事をとりながら、昔話や家族の事を思い出し、楽しい時間になるようつとめています。	食事のメニューは職員が作り、畑で育てた野菜を収穫し、利用者が出来る範囲で職員と一緒に調理・盛り付けを行っている。年間を通して季節の行事食や、利用者一人一人の好みに合わせた料理で誕生会を開催しており、利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は一日でどのくらい摂取出来たか記録し申し送りを徹底しています。ゼリー状にしたり摂取しやすい形態にし提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず口腔ケアを行っています。介助が必要な方も、仕上げは職員が行います。夜間は入れ歯の消毒も行います。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔や身体状況を把握し、トイレ対応・居室対応をしています。お声がけの時には近くからお誘いするよう心掛けています。	利用者の排泄パターンや排泄サインを把握し、トイレでの排泄が出来るよう支援をしている。時間やタイミングを見計らい耳元で声をかけ、出来るだけトイレでの排泄が出来るように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々の排便の間隔を把握し、また行動の変化等にも注意しながら、運動や牛乳の提供等で便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	中には男性職員が苦手な方もおり、担当だからとせず女性職員と交代をし、柔軟に対応しています。入浴が難しい方はシャワー浴や清拭で清潔保持に努めています。	入浴は週2回を目安に、お湯は毎回入れ替えをし、気持ちよく入浴できるように支援している。入浴中職員と一緒に歌を歌ったり、入浴剤・菖蒲湯・柚子湯等季節ごとの変わり湯を実施し、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングと居室は自由に行き来して頂いております。休息や就寝時間はそれぞれのペースで行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化は速やかに主治医に報告し、薬の調整をしていただいています。安定している場合にも報告し減薬の相談もします。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若いころの話を伺いながら、趣味や仕事に近い活動を出来る様支援しています。昔話から思い出を再現した誕生会を企画し、楽しんで頂ける様つとめています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で外出の機会は減りました。感染予防をしながらお弁当を持ってドライブや、日をずらし初詣に出かけています。	コロナ禍で外出の機会は少なくなっているが、人のいない時間を見計らって、近くの公園にお弁当を持参し出かけている。猪苗代湖や中ノ沢温泉等へドライブに出かけたり、天気の良い日には駐車場で昼食を食べる等、外気浴も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所での金銭の預かりや管理はしていません。個人的に必要な物は家族様に準備して頂くか、事業所で立替にて購入しています。今年度は、買い物に出かける機会はほとんどなく、自らお金を使う機会もありませんでした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リモートでの面会や、はがきのやり取りの支援を行っている。遠方の家族との関りが絶えないようにつとめています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾りや季節を感じる花を飾り、その月の行事が分かるような工夫をしています。畳のスペースは、横になったりくつろげる場所として活用しており、必ず居室で休まなくてはいけないといった押しつけはせず自由に過ごしていただいています。	共用空間は広くて明るく、季節を感じる壁飾りや折り紙・写真・カレンダー等が飾られている。廊下には大きな椅子が置かれ利用者が寛げるよう配慮されている。利用者が小上がりで日向ぼっこをしながら横になったりも出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席の配慮や、職員が間に入り話の橋渡しをしたり、良好な関係作りの支援につとめています。各々の性格の把握につとめ、トラブルを未然に防ぐよう心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご自宅で使用されていたものを持ち込んで頂き、ベッドの位置などは家族様と相談し配置しています。家族の写真やペットの写真等の持ち込みのあり、居心地の良いお部屋作りにつとめています。	居室には、自宅で使用していたサイドボード・加湿器・テレビ・家族と一緒に撮った写真・自作の絵や俳句等々が持ち込まれ居心地の良い居室になっている。ベッドの位置や向きも利用者の状況に合わせてあり、マットと布団を持ち込み休む方も居る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が出来る様、見守り・お声かけをしています。少しずつ、自室やトイレの場所が分からなくなってきた方には、入口に表札を下げたり、なるべくご自分で判断できるようにつとめています。		